

秋田県の進路対策委員会では、全県のPTA会長を対象に、子どもたちを取り巻く進路環境を知るための研修会を今年度も実施しました。各校では、子どもの自立を支援する取り組みを保護者と教職員が連携しながら行っています。そのような各校PTAの活動の一助になればと企画しているものです。



間もなく大学入試が変わり、学習指導要領が変わります。時代の流れの中で、変遷していくものもたくさんありますが、私たち保護者は、これからも子どもの将来に対して、不易の部分でしっかりと支えていければと思っています。(秋田・高久臣平)

キャリア教育が重視される今、今年度の青森県進路対策委員会の研修会が「地元を支える人材を育てる新戦略」をテーマに、学校教育と地域社会との連携が一層求められる中での高校生インターンシップの活用術が事例を通して紹介され、大変興味深い内容でした。



高校生段階で最も必要であるインターンシップが、達成体験を経て有意義なものだと実感できれば必ずと進む路が拓けることを、私たち保護者や子供たち一人一人が意識したいものだと思います。(青森・世永恵美子)

山形県高P連としての進路対策については、各高校およびPTA単位単位であることから各高PTAとも子供たちの目標や夢を叶えるために学校と連携をはかりながら活動を行っています。



親は、進路は子供たちの自主性を尊重すると言いながら親子で話をするうちに心配の親御心が働きドリームキラー化してしまうこともあるかと思えます。

子供たちの信念にしっかりと向き合い、正しい選択ができる情報と知識をきちんと伝えるときにもPTAとして保護者間、学校の情報を共有しながらニーズにあった進路対策活動を展開していきたいと思っています。(山形・佐藤正光)

岩手県は、新規学卒就職者の3年以内の離職率が全国平均より高い傾向にあります。今年度は、昨年の企業アンケート調査の結果をうけ、県内企業の採用担当者を講師に招き、進路対策委員との座談会を行いました。講師から「企業が求める人材とは」をテーマに様々な情報が提供され、企業側の努力、コミュニケーション能力の向上やマッチング等、有意義な情報交換ができたことを嬉しく思います。



子供達の進路実現にむけて、PTA、保護者として、子供達ともしっかり向き合い、広い視野を持って接して行くことが大切だと感じました。(岩手・山崎元)

福島県の今年度の主な取り組みは、会津支部で行われた講演会を全県に発信し、子ども達の進路意識の向上をはかることです。11月に野村総研の名取雅彦氏を講師にお招きし、「2030年の社会の展望と地域力」と題した講演会を実施しました。この講演会の中で、名取氏は地域創世のためには地域総ぐるみで地域の宝を発掘し、若い世代の人材育成、支援が最重要であるということを示されました。将来の日本、福島県を担う人材のために、保護者、学校、地域社会、行政が一体となって未来の光を育てていきたいと考えています。(福島・齋藤謙市朗)



宮城県では、今年度南東北インターハイ、全国総文祭が開催され各校の年間のPTA行事も大変なようでした。そのような中でも進路委員会はしっかり開催され、保護者と学校との情報共有がなされていました。各事業所を回り職業人インタビューや、PTA研修



に大学研修を組み入れ成果を上げる学校もありました。また、学校評議員に模擬面接官を依頼する学校もありました。いずれにしても雇用情勢や少子化時代に向けて進路は大変な時代に向けて進んでいることは間違いないと思います。この委員会においても先を見据えて計画的に進むべきと考えています。(宮城・赤間廣幸)

委員会の記録・編集後記

- 第1回 6月14日(水) 盛岡市・ホテルルイズ
- 第2回 10月6日(金) 福島市・ホテル辰巳屋
- 第3回 12月15日(金) 福島市・ホテル辰巳屋

一口に進路対策といっても、どのようなところに焦点を絞って活動すべきか難しさのある委員会ですが、実質2回の会議の中での活動内容をまとめたところです。今回から電子データでの報告となりますが、各学校で必ずアウトプットされますとともに、その内容はそれぞれの活動の中にインプットされるよう願っております。(福島県高P連事務局 大和田修)

平成29年度活動報告

事務局：福島県高等学校PTA連合会（平成28・29年度）
所在地：〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5（福島県青少年会館内）
電話：024-545-3368 FAX：024-545-3402
E-mail：ptarengoukai@h6.dion.ne.jp

PTAが進路実現のためできることは

東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員長
全国高等学校PTA連合会 進路対策委員
福島県立安積黎明高等学校PTA会長

矢部浩樹



東北地区高P連進路対策委員会のこの一年の活動を振り返ると、子どもたちの進路実現に関してPTAがどのような役割を担うことができるのか、いろいろと考える機会をもつことができました。

まず、本年度の活動内容を検討する際に、生徒たちの多様な進路を考えると、就職、進学どちらかのみを軸を置くことは難しく、もっと広くキャリア教育という視点から考えようとする、前提となる将来は劇的な変化が予想され、展望することも非常に困難であることを実感させられました。

新たな学力観の導入、高大接続の改革、働き方改革、ワークライフバランスの実現等が叫ばれていますが、それらの前提となる日本の社会は、情報化、AI技術等が急激に進展する一方で、人口の減少をはじめ、誰もか経験したことのない縮小の途をたどると予想されています。

そのような中、我々ができることは何かを探るため、当委員会では2回にわたり講師を招いて勉強の機会を持ちました。一

つは、さまざまな研修を通して、どのような状況でも自らの力で考えることのできる人材の育成について、もう一つは、新しい学力観の目指すものと子どもたちがこれからの社会で活躍するために必要な力とは、また、それをどのように引き出すかについて、お話をうかがうことができました。

さらに、進路実現を支援するための活動としてどのような取組があるか、各県の特徴ある事例を持ち寄るとともに、これから求められる活動のあり方についても話し合ったところです。

これらの講話の内容と活動事例を紹介していくことで、進路対策に関して、県連、地区会、単PそれぞれのPTA組織がどのような考えのもと、どのような活動を展開していくべきか、いくばくかのヒントとなれば幸いと思っています。

なお、今回の報告からは、紙ベースではなく電子データでの配信といたします。どのような形で会員の皆様のもとに届き、読んでいただき、お役に立つことができるかも一つの実験と考えますので、よろしく願っています。

平成29年度 東北地区高等学校PTA連合会 進路対策委員



- 委員長 福島県 矢部 浩樹 (福島県高等学校PTA連合会会長)
- 副委員長 福島県 齋藤謙市朗 (福島県立喜多方高等学校)
- 副委員長 青森県 世永恵美子 (青森県・五所川原第一高等学校)
- 委員 岩手県 山崎 元 (岩手県立盛岡工業高等学校)
- 委員 宮城県 赤間 廣幸 (宮城県松山高等学校)
- 委員 秋田県 高久 臣平 (秋田県立湯沢高等学校)
- 委員 山形県 佐藤 正光 (山形県立酒田東高等学校)